

高齢者に発生した水痘の1例

尾崎千香子, 谷崎英昭, 黒川晃夫, 森脇真一
大阪医科大学皮膚科

85歳, 女性. 既往に関節リウマチ, 気管支拡張症, うつ病がある。

20XX年3月, 関節リウマチと診断された。同年5月よりサラゾスルファピリジン1000mg/日, 8月よりブシラミン100mg/日追加投与された。10月頃より, ブシラミンによると思われる薬疹が出現したため, 12月, ブシラミン内服中止となった。翌年3月, 紅暈を伴う水疱が全身に多発してきた。自己免疫性水疱症を疑って行った血液検査では, 抗デスマグレイン1抗体, 抗デスマグレイン3抗体, 抗BP180抗体はいずれも正常値であった。右胸部の水疱を生検したところ, 組織学的に表皮内水疱が認められ, 水疱内には壊死組織やスリガラス状の核を有する細胞があり, 水疱部の真皮には核破碎物と好酸球が散見された。免疫抑制状態での水痘(外来からの再感染)もしくは帯状の水疱(主病変部)が顕在化している再発性帯状疱疹が鑑別として考えられたが、臨床所見と病理組織学的所見より本症例を水痘と診断した。水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化する際には、帯状疱疹で高齢者に出現した水痘はまれである。本症例では、VZV抗体価を測定していなかったため、水痘の初発か再発の鑑別は困難である。高齢者の水痘発症は極めて稀であり、文献的考察を含めて報告する。